

One-Bo 利用インタビュー

株式会社GMOブライツコンサルティング様





株式会社GMOプライツコンサルティング

GMOプライツコンサルティング株式会社
ドメインネーム事業本部本部長 兼) 経営企画本部本部長
網野 圭亮

GMOプライツコンサルティング株式会社

企業ブランドの構築支援を行うコンサルティング会社。ドメイン登録・更新・管理適正化に関するサービス、模倣品・模倣サイトのリスク管理対策、ブランディングのための海外商標登録支援サービスを提供し、ドメインネームや商標の使用実態に関するリサーチ及び、リスク回避から活用までの支援を得意としている。

主にブランド戦略に関わる知的財産部門やマーケティング部門、あるいはビジネスインフラを支える情報システム部門より依頼を受け、世界200以上の国と地域に広がる独自のグローバルネットワークを駆使し、お客さまにとっての「最強の権利守護者」として、最適なソリューションを提案し、信頼性の高いオペレーションを提供。

One-Bo導入前は「オンライン会議は肩身が狭い」という声があった

コロナ禍の影響により、商談や打ち合わせのほとんどがオンライン会議になりました。働き方という面ではとても効率的になりましたね。

けれども、オフィスでオンライン会議をしていると、他の人の声をマイクが拾ってしまい相手先に迷惑をかけたり、自分の声がオフィス内で仕事中的人の迷惑になったりと、新しい問題が発生してしまいました。一部の社員からは「オンライン会議をするときは肩身が狭い」という声も上がっていたんです。

また、オンライン会議のために1人で会議室を使用する場面も多くなり、会議室が不足してしまうという別の問題も発生していました。



オンライン会議の環境が整い、 現在は常に誰かが One-Bo を使用している状態

オンライン会議のスタンダード化により生まれた新しい問題を解消するために、One-Boを導入することを決めたのですが、この判断は大正解でした。

完全防音ではないとのことと心配していた遮音性ですが、オンライン会議をするにあたっての防音性能は十分だと感じました。集中できる環境はしっかり整います。ボックス内は白一色なので映像に写る背景にも清潔感があります。

それから、夏でも思っていたより暑くなかったことは驚きました。備え付けのファンで十分室内の温度調整が可能でしたね。

「スマートガラス」も、とても良い機能です。私が One-Boを利用する際には、お客様との商談等、集中したい時にはスイッチを ONIにして、開放的に使用したいときはOFFにしています。場合によって使い分けが出来るのは嬉しいポイントです。

One-Boを設置してからしばらく経ちましたが、現在はどの時間帯でも常に誰かが使用している状況です。会議室不足の問題は解消され、オンライン会議スペース確保のための スケジュール調整をしなくてよかったこともあり、「オフィス内のスペースを効率よく活用できている」と社員にも好評です。



コミュニケーションの時間をしっかり 確保するためOne-Bo利用の独自ルールを設定

当社では、One-Bo利用にあたって独自のルールを設けています。作業だけの使用は禁止とし、One-Bo内はオンライン会議のための場として利用方法を制限しています。

リモートワークは、効率的でとても良い働き方ですが、その反面、コミュニケーションが取りづらいというデメリットがあります。だからこそ、出社した際には在宅勤務で直接会えない時間の分までたくさんコミュニケーションを取っていきたいので、そのようなルールを設定しました。

GMOインターネットグループには「コミュニケーションの貯金」という考え方があり、私たちは、コミュニケーションをととても大切にしています。コミュニケーションの質と量は、事業の成果に大きく反映されます。

在宅勤務と出社勤務の バランスを取りながら、コミュニケーションの 貯金をどれだけ増やし、減らさないようにしていくか。新しい時代の働き方をOne-Boと一緒に模索していきたいと考えています。



One-Boは新しい働き方のトレードマーク

One-Boは、コスト面ではもちろん、この時代に合った機能や使いやすさがあります。One-Boの導入は、当社にとっても良い効果をもたらしてくれました。

オンライン会議が日常にどんどん馴染んでいくにつれて、One-Boのような個室ボックスの需要はどんどん高まっていくと思います。オフィスに数台、個室ボックスがあるという形が、これからの時代のスタンダードになっていくのではないのでしょうか。

One-Boは、コロナ禍の新しい働き方のトレードマークですね。

大会議室のようなスペースをなくし One-Boを複数台設置する、デスクを減らした分 One-Boを設置する等、色々な導入パターンがありそうです。

今後、One-Boがどのような形で活用されていくのか、個人的にもとても関心があります。